

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年2月27日

事業所名 児童発達支援西宮たんぽぽ

児発…配布11名中回答 9名 放デイ…配布19名中回答16名

	チェック項目		はい	どちらとも えない	いいえ	わからない	ご意見児発保護者 放デイ保護者	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標				
環境・ 体制整備	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	保護者	100	0	0	0						
		職員	94	6	0	0						
	職員の配置数は適切である	保護者	100	0	0	0			入って間もないので専門性のある職員が誰か、把握できていない。 内容を見学していないので分からない	・生活空間が心地よく使いやすい環境になっているか日々こまやかに目を配り、清潔で心地よく過ごせる環境作りに励みます。		
		職員	75	25	0	0						
	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	保護者	100	0	0	0					一人ひとりのマークがあり分かりやすい 注意して見ていなかったので分からない	・保護者に職員の配置数や施設内のご説明等、分かりやすいお伝えを工夫していきます。
		職員	75	25	0	0						
生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	保護者	100	0	0	0	心地よく過ごせる環境になっていると思う						
	職員	88	12	0	0							
業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	職員	100	0	0	0				2022年度に実施した第3者評価の評価結果を今後の業務改善につなげていきます。			
	職員	88	12	0	0							
保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	職員	100	0	0	0							
	職員	100	0	0	0							
事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	職員	100	0	0	0							
	職員	88	12	0	0							
第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	職員	88	12	0	0							
	職員	88	12	0	0							
職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	職員	100	0	0	0							
	職員	100	0	0	0							
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	保護者	100	0	0	0	事前に要望を聞いてくださり、それを元に作成されている					
		職員	94	6	0	0						
	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	職員	100	0	0	0						
		職員	100	0	0	0						
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	職員	100	0	0	0				制作の中に組み込まれたりしている	・日々の記録が支援の検証・改善につながるよう、記録の書き方をさらに工夫していきます。	
		職員	100	0	0	0						
児童発達支援計画に沿った支援が行われている	保護者	100	0	0	0	子どもの話し合いと希望で進められているようなのでかたよりのあるかも	・支援計画がこどもの実態により則したものとなるよう、複数の意見を取り入れたモニタリングの工夫、定期的な見直しが行えるしくみ作りを行います。					
	職員	94	6	0	0							
活動プログラムの立案をチームで行っている	職員	100	0	0	0							
	職員	88	12	0	0							
活動プログラムが固定化しないよう工夫している	保護者	100	0	0	0							
	職員	94	6	0	0							
活動プログラムが固定化しないよう工夫している	職員	100	0	0	0							
	職員	100	0	0	0							
子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	職員	100	0	0	0				・保護者に活動プログラムの内容や目的等、分かりやすいご説明の仕方を工夫していきます。			
	職員	88	0	0	12							
支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	職員	100	0	0	0							
	職員	100	0	0	0							
支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	職員	100	0	0	0							
	職員	100	0	0	0							
日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	職員	100	0	0	0							
	職員	75	22	0	0							
定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	職員	100	0	0	0							
	職員	88	12	0	0							
ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	職員	63	37	0	0							
	職員	63	37	0	0							

	チェック項目		ご意見				児童保護者 放デイ保護者	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
			はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	職員	75	25	0	0		<p>・2023年度はペアレントトレーニングの開催を目指します。</p> <p>・保育所、児童館等と交流する機会を確保できるようつとめます。</p> <p>・職員へこども部会での活動内容の周知を図ります。</p>
			75	25	0	0		
	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関、学校と連携した支援を行っている	職員	88	12	0	0		
			88	12	0	0		
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	職員	64	12	12	12		
		職員	50	25	12.5	12.5		
	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	職員	100	0	0	0		
			75	25	0	0		
	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	職員	63	37	0	0		
			88	12	0	0		
	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	職員	75	25	0	0		
			88	12	0	0		
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後児童クラブや児童館障害のない子どもと活動する機会がある	保護者	33	22	11	33	コロナ禍のため、交流が難しいと考える	
		職員	50	50	0	0	・息子にとって望んでいないので必要としない、分からない	
(自立支援)協議会子ども部会や地域の子どもの子育て会議等へ積極的に参加している	職員	63	37	0	0			
		50	50	0	0			
日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	保護者	100	0	0	0	気軽に相談ができて、アドバイスも下さるので助かっています		
	職員	100	0	0	0			
保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	保護者	100	0	0	0	発想の転換などになる		
	職員	100	0	0	0			
運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	保護者	100	0	0	0	紙面や一人ひとりに丁寧に説明してくださっている		
	職員	88	12	0	0			
児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	保護者	100	0	0	0	年2回、面談があり、その時に様子が聞ける		
	職員	100	0	0	0			
定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	保護者	100	0	0	0	気軽に相談ができて、アドバイスも下さるので助かっています		
	職員	94	6	0	0			
父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	保護者	78	11	0	11	コロナで保護者会はないが、父母の会はあり、秋まつりに出展されている		
	職員	88	12	0	0			
子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	保護者	100	0	0	0	・苦情がないので何とも言えない		
	職員	69	31	0	0	・分からない(2名)		
定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	保護者	100	0	0	0	・いつもわがまま(私の)聞いてもらい感謝		
	職員	100	0	0	0			
個人情報の取扱いに十分注意している	保護者	100	0	0	0	毎月の予定表、活動報告もあり、連絡はメールやお手紙もある。		
	職員	88	12	0	0			
障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	保護者	100	0	0	0	何かあれば話を聞いてくれるので感謝している。		
	職員	100	0	0	0			
事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	職員	88	12	0	0			
		100	0	0	0			

保護者への説明責任等

	チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見 児発保護者 放デイ保護者	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	保護者	88	12	0	0	・学年が上がって直接先生と話すことが減ったのでこういう機会はないが、別に必要とは思わない。	・年間計画や、実施した訓練の報告をブログやクラス便り等で保護者にお知らせし、共有を図ります。  ・服薬、てんかん、アレルギー等の子どもの状況は必ず職員全員で確認、周知徹底をはかります。
			81	19	0	0		
		職員	88	12	0	0		
			75	25	0	0		
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	保護者	100	0	0	0	訓練されている分らない。	
			69	31	0	0		
		職員	100	0	0	0		
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	職員	100	0	0	0		
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	職員	62.5	25	0	12.5		
62.5			12.5	25	0			
ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	職員	88	12	0	0			
		100	0	0	0			
虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	職員	100	0	0	0			
		100	0	0	0			
どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	職員	75	25	0	0			
		75	25	0	0			
満足度	子どもは通所を楽しみにしているか	保護者	88	0	0	12	すごく楽しみにしている。 特にクッキング ・大好きな場所 ・楽しかったと帰ってくる	・こまやかに一人ひとりのこどもの観察を行い、個性や思いを理解し支援していけるよう努めます。 ・職員間での学びを深め合い、保護者、関係機関との情報共有に力を入れ、生活を見通した支援に真摯に取り組めます。
			100	0	0	0		
	事業所の支援に満足しているか	保護者	100	0	0	0	・自分を出せる場として安心して通え、満足している。 ・すべての項目に大変満足、とても素晴らしい事業所。よくしてもらい感謝。 大好きな先生と会えるすてきなところ	
			94	6	0	0		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。